

わたしたちの物語

く世の中にこんな青春もありましたく

川俣キミさん(90歳) 昭和女子大学実習生

昭和十年生まれですから、四年生の時に戦争が終わりました。

それから、私は十七で結婚したんですよ。

和裁なんかも、田舎にいてちよつと習いに行つて、

それでお嫁に来ちゃったもんですから、料理も何もできないし、

着物だつて、正式に合わせが縫えるか、縫えないかぐらいですよ。

だから、大変でしたよ。

それで嫁ぎ先のおばあちゃんに鍛えられたような感じね。

そしたらもう子供が生まれて半年ぐらいかなあ、

主人は二十五で結婚してだから二十七くらいでしょうね。

主人が狭心症になつて倒れてねえ。

主人の兄弟がみんな亡くなつちやて、お父さん一人になつたから、

おばあちゃんが大事にしろ大事にしろつて。

田舎行くにしても、私はおんぶしたり、

荷物お父さんに持たせるなつて言うし、だから力はあつたんですよ。それから私、飴屋さんにね就職。

一年ぐらいして、採用されて忙しいんですよ。

朝の五時頃入るんですよ。

一回、六時半頃帰つてまた八時半頃行くんですよ。

夜は五時頃終わりますけど、朝が早いからね、

子育てしながらね、仕事してたんじゃないかな。

楽しかったこと。割と子供の時、足が早かったのね。

それでね、父親も早いんですよ。

今日、学校の運動会の練習だつて言うとな、

父親と学校の近くの畑にね、移動すんの、応援に来てね。

そんで五・六年までは早かつたんですよ。

それがめでたくてね、父親が喜んでたんですよ、

でね、父親もね青年団で、やっぱり早いもんですから、

郡の方の運動会があつて、そこで駆けつてたらしいんですよ。

その時にね、「今の校長と俺は一緒に駆けたんだ」なんてね。

ほんで1度栃木市の運動会には私も行ったことあるのね。

だけどね何しろ私たちの時代、

靴なんてないからいつも裸足で駆けてたんですよ。

そしたら急にスパイク。あれ履かされたら、全然走られなかった。

やっぱり、田舎で物ないところはダメだなと思いましたね。

子供もだいぶ大きくなって、三十一年ぐらい勤めたかな。

その間にね、何年だろう。十四年かな。

踊りね、新舞踊たまに日本舞踊もやるけどね、

発表会みたいなのも出たの。

それから、今はディサービス行つてんですけど、

その前はね、カーブス十一年ぐらいしてた。

始まつたら続けるんが癖なんだね。

